

図書館だより



9月号

2022年9月20日
安田小学校図書館

新校舎になって、10分休みも本を閲覧することができるようになりました。壁のない広い学校図書館で、子どもたちは好きな場所を見つけ思い思いに自分の時間を楽しんでいます。

本棚に余裕ができて本が取りやすくなったので、たくさんの方が生き物や歴史、音楽といった小説以外の本を借りるようになりました。それに「こういう本はありませんか？」といった積極的な質問も多く受けるようになりました。図書館が生き生きと動いている感じがしています。これから、たくさんの新しい本が入ってくることで、子どもたちの興味や関心がどんどん広がり、新しい図書館がみんなの大好きな場所の一つになるといいなと思っています。



教育実習生と一緒に朝読書。本もたくさん紹介してもらいました。



エビいた!どどこ? 隣は理科室、メダカの水槽の横にはメダカの本があります。



ガラス戸でつながった「くすのきラボ」で、大好きな先生と楽しいアニメーション。



置コーナーでの読み聞かせ。国語『サーカスのライオン』に関連した絵本にイメージが広がります。

おいしい秋みーつけた

秋といえば読書と食欲! 食べることをテーマにした本には、読んで楽しいものがたくさんあります。

低学年

『サリーのこけもつつみ』

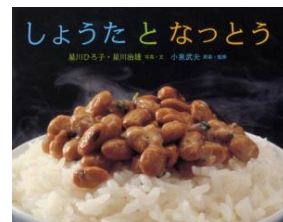
ロバート・マックロスキー / 文・絵 石井桃子 / 訳 岩波書店



おかあさんとこけもつを摘みに来たサリー。夢中になって食べているうちにお母さんを見失ってしまいます。同じころ、山の反対では子グマが同じように母グマを見失っていました。シンプルな二色刷りの絵は実りの秋を迎えた山の香りまで伝えてくれるようです。

『しょうたとなっとう』

星川ひろ子・星川治雄 / 写真・文 ポプラ社



納豆が大嫌いなしょうたは、じいちゃんと一緒に青大豆の種をまきました。そして、秋にたくさん実った大豆を乾燥させて、ゆでて、わらづとに入ると、やがて見事な納豆が出来上がります。食の知恵が祖父から孫に伝わる様子を丁寧に写した写真絵本。

中・高学年

『給食アンサンブル』

如月かずさ / 著 光村教育図書



転校した学校が嫌で、友達とうちとけることができない美貴、人気者だけど、本当は自分に自信がない雅人、友達の姉が気になる満、同じ学校で生活する6人の中学生のひそかな悩みを、給食メニューに絡めて描く連作短編集。

『カレーライスを一から作る』

前田亜紀 / 著 ポプラ社



探検家関野吉晴さんのゼミに大学生が集まった。目的はカレーライスの材料を全て自分たちで作ること。お米、野菜、お皿までを試行錯誤しながら準備した学生たちだったが、かわいがって育てた鳥を食べるのかどうかで意見が割れてしまう。食べることを真剣に考えた9カ月間のノンフィクション。

『SDGs時代の食べ方』

井出留美 / 著 筑摩書房



日本では今この瞬間にもまだまだ食べられる食べものが捨てられている。その量は国連が飢餓の国に行っている食料支援のなんと1.4倍。これっておかしくない? SDGs時代にふさわしい食べ方で社会を変えよう! 10代の探求を応援する「ちくまQボックス」シリーズの中の一冊。

どの学年でも

『料理はすごい!』

シェフが先生!小学生から使える、子どものためのはじめての料理本

柴田書店



サンドイッチからあんかけチャーハンまで、人気店のシェフが「小学生がつくれること」を一番に考えたメニューが並びます。手順にはすべて写真が添えてあるので、具体的な切り方や材料の状態が確認しやすいのもポイントです。さあ、つくってみよう!